

# 施策評価表

施策分野	6-1 観光	
めざすまちの姿	○既存の地域資源が活用されるとともに、新たな魅力も創出され、その魅力が市内外・国外に伝わり、訪れる人が増えている。	
施策	(1)地域資源の磨き上げと掘り起こし	
総合戦略での位置付け	基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	-

施策の方向性	○ウェルネスツーリズムの促進を図ります ○地域間の周遊性の向上を図ります ○多様な人材が協働して参加するコンテンツ開発に取り組みます	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	観光振興・宣伝事業	宝塚魅力体験事業
---------------	-----------	----------

担当部局評価	B	評価の理由 指標①は、コロナ禍で「Gotoトラベル」が停止する中、「県民割」や市独自の宿泊割引事業を実施するも、目標値には至らなかった。しかし、アートによる観光まちづくり事業では、周遊性の向上を図り、新たなまちのにぎわいを創出しており、「目指す方向性」と合致している。一方で、観光振興戦略に掲げる「ウェルネス」を軸に、「官民協働による持続可能な観光振興」を行ってため、行政主導から、行政がきっかけをつくり、市内事業者等が主体となり民主導による観光ビジネスの創出に着手した。指標②の「コンテンツ開発」では、意欲ある事業者の掘り起こしを行い、マッチングにより、2事業者が合同で実証イベントを開催し、コンテンツとして仕上げたことから、評価はBとする。
--------	---	---

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		宿泊者数	↗	人	100,839	目標	136,250	138,000	139,750	141,500	143,250
		達成状況とその理由	新型コロナウイルス感染症により、旅行などを手控える動きが続いている。また、海外からの入国制限も継続しており、大きな影響を受けた。								
②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	コンテンツ開発数	↗	コンテンツ	0	目標	1	1	1	1	1	
		達成状況とその理由	新しい観光コンテンツとして可能性がある4つの提案から、2事業者がマッチングし、西谷の里山を満喫しながら、宝塚コーヒーを楽しむイベントを実施し、一つのコンテンツに仕上げた。残る提案も、引き続き、コンテンツまでに成長するよう支援していく。								
③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	-	-			目標						
		達成状況とその理由									

施策実現のための課題	コンテンツ開発では、武庫川河川敷、西谷の里山、コーヒー、市花ダリアを素材とした4つの提案があり、いずれも大きな可能性を秘めているが、今後、新たな観光コンテンツまで成長するまでには、事業者の意欲が大きく左右する。提案の改善点を検証し、モチベーションを保ち、自立した観光ビジネスへと成長させるために、市や市国際観光協会がどのように関わっていくかが課題である。また、市北部地域など市内の新しい観光資源や人材の掘り起こしを進め、意欲的な事業者間の輪を構築していく必要がある。	課題を踏まえた今後の取組	観光振興戦略で掲げる「ウェルネス」を軸としたコンテンツ開発を進めていくが、行政主導の取り組みとはならないよう、伴走的支援を基本とすることで、自立を早め、新たな誘客、市内消費の拡大に寄与していく。また、方向性を同じくする事業者とのマッチングや、新しい人材が新しい人材を引き入れるような好循環の連鎖を醸成し、業種の垣根を越えた、新しい観光コンテンツを育てていくことで、新たな宝塚の観光を創出していく。一方で、新しいものを敬遠ぎみな環境においては、より地元の理解が得られるよう努める。
------------	---	--------------	---

行政評価委員会評価	○観光戦略と施策は一致させるなど施策の体系をよく整理していただきたい。 ○ウェルネスツーリズム及びマイクロツーリズムについて、どのようなターゲットを想定し、ターゲットごとにどのような手を打つか。データ活用などのDXの推進ともあわせて検討ありたい。 ○今後も官民連携がより一層推進されるよう取り組んでいただきたい。 ○観光振興戦略では10年後の目標として観光消費額を900億円とされているが、これは宝塚市の財政にどのように貢献するのか。また、観光にどのような波及効果があるのか。説明が必要ではないか。 ○施策の方向性の一つである「地域間の周遊性の向上」に係る成果指標の設定を検討すべき。 ○コンテンツの定義、コンテンツ開発の内容についてわかりやすく記載すべき。成果指標②について、コンテンツ開発数のみならず、コンテンツの波及効果が測れるような成果指標について検討すべき。
-----------	---

# 施策評価表

施策分野	6-1 観光											
めざすまちの姿	○既存の地域資源が活用されるとともに、新たな魅力も創出され、その魅力が市内外・国外に伝わり、訪れる人が増えている。											
施策	(2)積極的な誘客に向けた国内外への情報発信											
総合戦略での位置付け	基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	-										
施策の方向性	○積極的な誘客の展開に取り組みます ○観光情報(資源)の積極的な発信に取り組みます ○観光資源の利用に向けた市民へのPRに取り組みます											
施策を構成する主な事務事業	観光振興・宣伝事業	新型コロナウイルス感染症対策観光事業者支援事業										
担当部局評価	B	評価の理由	新型コロナウイルス感染症の拡大から人の移動が制限される中、市独自の宿泊割引事業を実施したが、指標①は昨年度を上回るも、目標値まで回復していない。一方で、令和5年度に県下で実施される「デスティネーションキャンペーン(DC)」を好機と捉え、大阪・関西万博なども視野に、更なる誘客に向けて観光プランの開発や情報発信に取り組んだ。市国際観光協会、ひょうご観光本部との連携を密にし、今年の夏のプレキャンペーンでは、県下の重要コンテンツの一つに本市が選定された。また、マイクロツーリズムの観点からも、市内の観光資源に磨きをかけており、「めざす方向性」へと進めている。ホームページについては、新たに文化芸術的な要素を入れたこともあり、指標②のアクセス件数は上昇していることから、評価はBとした。									
成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
		観光入込客数	↗	人	6,623,755		目標	11,864,000	11,889,000	11,914,000	11,939,000	11,964,000
		実績			8,623,668							
	達成状況とその理由	新型コロナウイルス感染症により、旅行などを手控える動きが続いているうちに、観光施設の臨時休業などで大きな影響を受けた。なお、目標値は、コロナ禍以前の数値を基準として掲げたものである。										
	②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
		外国人観光客数	↗	人	568		目標	16,699	16,843	16,988	17,133	17,277
		実績			374							
	達成状況とその理由	新型コロナウイルス感染症による海外からの入国制限により減少した。なお、目標値は、コロナ禍以前の数値を基準として掲げたものである。										
	③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
市国際観光協会ホームページへのアクセス件数		—	件	277,132		目標	300,000	325,000	350,000	375,000	400,000	
実績				367,258								
達成状況とその理由	緊急事態宣言、度重なるまん延防止等重点措置と、目まぐるしく状況が変化する中で、情報を求める需要が高まったものと考えられる。また、アートによる観光まちづくり事業に取り組んでおり、文化芸術と連携した特集ページを設けたことも増加の一因と考えられる。											
施策実現のための課題	12年ぶりに兵庫県下でDCが実施されるが、県下の数多くのコンテンツの中に、本市の魅力が埋もれることがないように、本市の地域資源に磨きをかけ、引き続き、JR、ひょうご観光本部等への働きかけが必要である。また、令和6年度には「トリプル周年」が、令和7年には「大阪・関西万博」が控えており、長期的な視点で取り組む必要がある。実施した市民を対象とした宿泊割引は、市民が市内宿泊施設をより身近なものに感じる取組となったが、感染症拡大防止の観点から、市民に限定したものであり、本来目的である全国への発信することが出来なかった。			課題を踏まえた今後の取組	本市の観光資源に磨きを掛け、魅力あるコンテンツづくりを進めるとともに、市、観光協会からJR、ひょうご観光本部へ、それぞれ働きかけを強化していく。DCの本番に向けて、宿泊事業者だけでなく、市内の観光関連事業者にも好機と捉えてもらえるよう、積極的に働きかけていく。また、インバウンドの回復、万博開催に向けては、西谷の自然や縁起物づくりを素材として準備を進めており、県の協力も得ながら進めていく。一方で、国の補助金を活用しながらの観光関連事業者への対策、来るべき回復期に備えたインバウンド等への対応準備を継続していく。							
行政評価委員会評価	○積極的な情報発信のために、文化、芸術、観光関係等の大学との連携の強化を検討すべき。 ○既存の国内のSNSに留まらず、中国のSNS(微博・微信等)を活用することも考えられる。情報発信の強化に取り組む必要がある。											

# 施策評価表

施策分野	6-1 観光	
めざすまちの姿	○既存の地域資源が活用されるとともに、新たな魅力も創出され、その魅力が市内外・国外に伝わり、訪れる人が増えている。	
施策	(3)持続可能な観光振興に向けた環境整備	
総合戦略での位置付け	基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	-

施策の方向性	○来宝者に向けたインフラ整備に取り組みます ○観光に携わる関係者の合意形成と人材の育成を図ります ○観光消費額拡大を目指します	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	温泉施設維持管理事業	観光施設維持管理事業
	観光振興・宣伝事業	新型コロナウイルス感染症対策観光事業者支援事業
	宝塚魅力体験事業	

担当部局	B	評価の理由	新型コロナウイルス感染症対策への支援として、市内宿泊施設へ宿泊料金割引原資の一部を補助する「たからづか宿泊割引キャンペーン」を実施するなど策を講じたが、観光施設の臨時休業も加わり、昨年度を上回るものの、指標に達しない見込みである。一方で、ボランティアガイドによる「宝塚観光ガイド夢さがし隊」や歌劇団OGなど、市民によるおもてなしの向上に努め、新しく設置した関西学院大学と連携コースでは、若い世代からの意見や提案が、サイクリングによる西谷観光など、新しい観光コースなどの検討につながっており、「めざす方向性」の実現に向かっていることから、評価はBとした。
評価			

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		観光消費額	↗	百万円	47,304	目標	88,316	88,503	88,690	88,878	89,065
		達成状況とその理由	コロナ禍の人の往来の制限、観光施設の臨時休業などで大きな影響を受けた。なお、指標となる値は、10月ごろ県から発表されるが、昨年度を上回るも目標値には至らない見込みである。なお、目標値はコロナ禍以前の数値を基準としたものである。								
②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	-				目標						
		達成状況とその理由									
③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	-	—			目標						
		達成状況とその理由									

施策実現のための課題	新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、観光に対する考え方やあり方が目まぐるしく変化し、観光関連事業者においては、休業や事業規模の縮小を余儀なくされる中、その時々々の社会情勢に応じた施策が求められる。特に、市民ボランティアの育成や事業者間の連携づくりでは、行政が関与し過ぎないよう一定の配慮をしながら進める必要がある。また、市だけでは実施できない大規模な支援については、国の補助金を有効かつ効率的に活用しながら実施する必要がある。	課題を踏まえた今後の取組	観光振興戦略で掲げる「ウェルネス」の一翼を担う温泉や観光施設を維持管理しながら、景観保全など観光振興に向けた環境整備を進める。宿泊施設をはじめとする観光関連事業者へは、社会情勢を見極めながら、国の補助金などを活用した支援を継続する。市民ボランティア等については、実践での活躍が難しいものの、定期的な意見交換や勉強会の実施により、活動の輪が縮小しないよう努める。
------------	---	--------------	--

行政評価委員会評価	○コロナ禍で温泉施設利用者数は減少しているものの、各種施設の維持管理に努めていること、市民ボランティア等の活動が継続していることは評価できる。 ○施設の老朽化も課題として指摘されているが、それら改修に関する取組にも積極的に触れていく必要がある。 ○めざすまちの姿に対する事務事業のあり方が妥当か否かは疑問である。本施策は、観光の環境の維持管理に重点が置かれているが、観光振興・宣伝事業など、他の施策と大きく重複しているものは除外すべきではないか。各種環境の維持管理に特化するなど、政策体系を整理すべきではないか。 ○コロナ禍で全国的に消費が落ち込む中で、観光消費額のみ指標は評価が困難であり、環境整備という施策に対応した成果指標を設定すべきである。 ○維持管理に関する重要な施策であるにもかかわらず、指標が1項目のみという点は疑問である。 ○「B評価」とされている主な根拠は観光消費額である。観光消費額はコロナ禍において、目標を大きく下回っている。指標を参照するならば「C評価」となる。したがって、「B評価」の根拠を積極的に説明すべきである。
-----------	--

# 施策評価表

施策分野	6-2 商工業	
めざすまちの姿	○起業・創業が盛んになり、地域特性を生かした宝塚らしい産業が成長し、その魅力が発信され、市内で買い物をする人や働く人が増えている。	
施策	(1)新たな事業の創出	
総合戦略での位置付け	基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	-

施策の方向性	○起業しやすい土壌づくりに取り組みます ○創造性の発揮による新事業創出を支援します ○次世代の創造性豊かな担い手育成に取り組みます	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	産業振興事業	商工振興事業
	新事業創出総合支援事業	

担当部局	B	評価の理由	宝塚商工会議所や起業家等支援施設との連携した取組により、市内で起業や創業に向けた機運醸成に努めている。市内事業所へのデザイン経営の導入は端緒についたところであるが、取組事例をロールモデルとして市内事業者への波及効果が出せるよう取組を継続することとしている。
評価			

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		起業した事業者数	↗	者	31	目標	50	50	50	50	50
		達成状況とその理由	コロナ禍によるセミナー未実施及び起業家等支援施設の利用減少が起業実現の減に影響を及ぼした。								
②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	デザイナー等経営革新に必要な人材とマッチングした事業者数	↗	者	-	目標	30	30	30	30	30	
		達成状況とその理由	デザイン経営実践支援委託業務によりデザイン経営を指南する事業者が市内の3事業者に対して導入に係る支援を実施した。								
③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	-	-			目標						
		達成状況とその理由									

施策実現のための課題	<p>コロナ禍が長引く中、事業継続に困窮している事業者がある一方、補助制度や支援制度を活用し、経営改革や事業継続に向けて動き出している事業者も出てきている。ウィズコロナ、アフターコロナを見据え、起業、創業への取組や新事業創出等による事業継続への機運醸成が必要である。</p>	<p>課題を踏まえた今後の取組</p>	<p>起業家等支援施設と連携し、国などの制度を周知し、起業に向けた取組を推進していく。併せて、新事業創出総合支援事業でデザイン経営実践支援業務を委託することによりデザイン経営を取り入れ、経営改革や付加価値の創出、経営継続に意欲的な事業者を支援し、市内事業所の活性化を図っていく。</p>
------------	---	---------------------	---

行政評価委員会評価	<p>○目標については最終目標が毎年の目標になるわけではない。線形関数的に設定した方がよいのではないかな。</p> <p>○新事業創出と事業継承が区別されておらず分かりにくい。工夫する必要がある。</p> <p>○「宝塚市ならでは」や「宝塚らしさ」の観点から「なぜ宝塚市で起業するのか」を整理する必要がある。</p> <p>○「デザイン経営」の概念が分かりにくい。分かりやすく説明すべき。</p>
-----------	--

# 施策評価表

施策分野	6-2 商工業	
めざすまちの姿	○起業・創業が盛んになり、地域特性を生かした宝塚らしい産業が成長し、その魅力が発信され、市内で買い物をする人や働く人が増えている。	
施策	(2)まちの活性化	
総合戦略での位置付け	基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	-

施策の方向性	○個店からエリア全体の魅力向上を図ります ○既存事業所の市内立地継続支援に取り組めます	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	企業活動支援事業	産業振興事業
	商工振興事業	

担当部局	B	評価の理由	市内全エリアを対象に魅力ある個店の出店を促し、市内全域のにぎわい創出及び活性化を図るため、店舗等魅力向上チャレンジ支援補助金を創設した。(令和3年度は6件の補助を実施)コロナ禍により個別に市内事業所を訪問し、コミュニケーションを図っていくのは難しくなっているが、宝塚商工会議所からのヒアリングのほか、あらゆる機会を活用し、既存事業者の状況の把握に努めている。また、企業活動支援補助金により、既存事業所の操業環境の改善や事業拡張を支援し、市内の雇用創出と産業基盤の強化に努めた。
評価			

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		1店当たり年間商品販売額	↗	百万円	186(H28)	目標	200	200	200	200	200
達成状況とその理由	実績は経済センサス活動調査(直近は令和3年度に実施)による把握となり、当該調査結果が未公表のため令和3年度は現状値を実績とした。調査結果が公表され次第、実績値を更新する。										
②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	1事業所当たり製造品出荷額等(製造業のみ)	↗	百万円	982(H30)	目標	1,250	1,250	1,250	1,250	1,250	
達成状況とその理由	実績は経済センサス活動調査(直近は令和3年度に実施)による把握となり、当該調査結果が未公表のため令和3年度は現状値を実績とした。調査結果が公表され次第、実績値を更新する。										
③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	-	-			目標						
達成状況とその理由											

施策実現のための課題	<p>コロナ禍が長引き、市内事業所の経営継続は厳しい状況に至っている場合もあるが、市の補助制度等に留まらず、国や県、金融機関の融資制度など活用できる制度の案内には努めている。</p> <p>コロナ禍の影響に対しては、消費喚起策等の実施が求められている。</p>	<p>課題を踏まえた今後の取組</p>	<p>商工、観光、農政が連携を図り、市内事業所の状況把握に努め、効果的な制度や施策の展開を図っていく。</p> <p>令和3年度には、魅力ある個店の出店を促す店舗等魅力向上チャレンジ支援補助金制度を創設した。コロナ禍における対策として、感染拡大防止と経済活動維持の両立を図るための店舗等の改装費を補助する新型コロナ対応市内事業所等改装促進補助金制度や、消費喚起策としての商店街お買い物券ポイントシール事業、キャッシュレスポイント還元事業等の実施を検討する。</p>
------------	--	---------------------	--

行政評価委員会評価	<p>○施策の達成状況を測りうる適切な指標について検討すべき。</p> <p>○中小企業支援には「攻め」と「守り」の要素がある。現時点でどちらの方向を向くべきなのか、よく整理していただきたい。</p>
-----------	--

# 施策評価表

施策分野	6-2 商工業	
めざすまちの姿	○起業・創業が盛んになり、地域特性を生かした宝塚らしい産業が成長し、その魅力が発信され、市内で買い物をする人や働く人が増えている。	
施策	(3)宝塚ブランドを生かした魅力創出	
総合戦略での位置付け	基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	-

施策の方向性	○シビックプライドの醸成による地域内経済循環の向上を図ります ○商工業施策と文化芸術施策の連携を促進します	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	産業振興事業	商工振興事業
	宝塚ブランド発信事業	

担当部局評価	B	評価の理由	コロナ禍において、物販イベントなどの開催は難しい状況であるが、ムック本の発刊などで宝塚ブランド「モノ・コト・バ宝塚」のPRに努めている。(これまで4刊発行)その他、文化芸術センターで定期的に「たからの市」を開催し、西谷の新鮮野菜、雑貨、スイーツなどを販売し、賑わいを見せ始めている。
--------	---	-------	---

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		地域経済循環率	↗	%	59.9 (H27)	目標	63	63	63	63	63
		達成状況とその理由	地域経済循環率は複数の調査結果のデータを用いて積算されるもので環境省が所管しているが、平成27年度以降更新されていない。そのため令和3年度は現状値を実績とした。調査結果が公表され次第、実績値を更新する。								
②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	-	-			目標						
		達成状況とその理由									
③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	-	-			目標						
		達成状況とその理由									

施策実現のための課題	コロナ禍において、「モノ・コト・バ宝塚」の選定資源をはじめとする特産品や商品を物販イベント等による対面でのPRが難しく、現状に沿った柔軟な方法での効果的な魅力発信が求められる。	課題を踏まえた今後の取組	宝塚ブランド「モノ・コト・バ宝塚」の魅力を伝えるとともに、商工、観光、農政、北部振興などの分野で相互に連携し、宝塚の魅力発信を継続していく。
------------	--	--------------	--

行政評価委員会評価	<p>○成果指標①「地域経済循環率」という現評価指標は、宝塚ブランド「モノ・コト・バ宝塚」の創出成果を定量的に評価する精度がなく、環境省所管で定期更新も成されない。より適切な成果指標の設定を検討すべきである。</p> <p>○宝塚シビックプライドで、魅力を発掘する取組は良い。宝塚ブランド「モノ・コト・バ宝塚」に選定された資源を有効活用し、「モノ」：売上額、「コト」：来訪者数、「バ」：集客数や販売額など、資源毎の成果を数値目標や評価指標として設定してはどうか。</p> <p>○「商工業施策と文化芸術施策の連携」について、重点施策を具体化し、数値目標や評価指標を設定してはどうか。(例：西谷の新鮮野菜×文化芸術センター(たからの市)販売では、集客数や販売額など)</p> <p>○宝塚ブランド「モノ・コト・バ宝塚」の選定において、「モノ」の継続性に問題がある。選定が多岐にわたっているため年度によってテーマ又はエリアを絞って選定し、効果のある広報をすることによって継続した資源としていくべきである。</p>
-----------	--

# 施策評価表

施策分野	6-3 農業	
めざすまちの姿	○多くの人が身近に「農」に触れるとともに、農業を志す人が増え、「花き・植木」や「西谷野菜」などの農産物や加工品のブランド化が進んでいる。	
施策	(1)農業の持続的な発展	
総合戦略での位置付け	基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	-

施策の方向性	○新規就農者や集落営農組織など地域農業の担い手を確保します ○地域に根付いた農業生産を推進します ○農地や農業用施設の適正な維持管理に努めます ○有害鳥獣による農作物被害の減少を図ります ○都市農業の振興を図ります	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	新規就農者確保事業	農業振興事業
	林業振興事業	農業委員会事業

担当部局	B	評価の理由	就農希望者セミナーでPRするなど新規就農者確保に努める中、他自治体との競争にもなっているが、R3度は5名の新規就農者を得た。有害鳥獣に関しては、猟友会による捕獲事業に加えて、農会を対象とする防除柵補助金により、農業者と連携した取組を行なっている。
------	---	-------	---

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		集落営農組織数	↗	団体	5	目標	5	5	5	6	6
達成状況とその理由		地域での進捗状況等を随時確認している。地域での合意形成までは至っていないが、組織数は令和2年度数値を維持することができている。									
	②	指標名	めざす方向性	単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		農地集積率	↗	%	8.7	目標	12	12	14	14	16
達成状況とその理由		農地の斡旋等農業委員との連携により新規就農者及び担い手への利用権設定が増えてきている。									
	③	指標名	めざす方向性	単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		有害鳥獣による農作物被害額	↘	千円	4,140	目標	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500
達成状況とその理由		鳥獣被害防止対策交付金等を活用し、防護柵の設置を行った。また柵の破損箇所の増加などを防ぐため、一部地域においては、研修等により獣害対策意識の醸成を図った。									

施策実現のための課題	農業経営を行なうにあたって、「高齢化・労働力の不足」「有害鳥獣の被害」などが大きな課題となっている。また、令和4年には多くの生産緑地が指定後30年を迎えることから、都市農地の減少が懸念される。	課題を踏まえた今後の取組	後継者不足への懸念には、集落を単位として農業に取り組む組織数を増やすとともに担い手に農地を集積させることや新たな就農者を確保することが必要である。有害鳥獣被害については、地域全体での被害対策を進め、生産意欲や農業所得の減少を防ぐことが必要である。農業委員会もしっかりと連携を図るとともに、引き続き、新規就農者確保事業、有害鳥獣防除対策事業等に取り組む。都市農地については、賃借の円滑化に関する制度の周知に努め、減少を防ぐ取組とする。「人・農地プラン」の作成など地域での取組を見守りながら、農業に取り組む組織数の増、農業の集積に努める。また市で設置したパイプハウスの活用を広報し、新規就農者の確保に努める。有害鳥獣対策については、農会を通じて防護柵の設置を進め対策を行う。
------------	--	--------------	---

行政評価委員会評価	○全体的にわかりやすくなるようにしていただきたい。 ○「農業生産額を伸ばす」のか「農業生産額の現状を維持する」のか。第2次宝塚市農業振興計画等との関連性を踏まえ、メリハリをつける必要がある。 ○農地を維持していくことも市の政策目標である。ここからいえば、「耕作されていない面積」が今以上に広がらないことも成果として考えられる。指標化を検討ありたい。 ○集落営農については、「個人の(発意の)問題」と「地域の問題」と全体の奉仕者である「行政の問題」を切り分けて説明すべき。特に、個人の財産に行政がどこまで関与するのかについて検討ありたい。 ○「施策実現のための課題」の記述を充実していただきたい。
-----------	---

# 施策評価表

施策分野	6-3 農業	
めざすまちの姿	○多くの人が身近に「農」に触れるとともに、農業を志す人が増え、「花き・植木」や「西谷野菜」などの農産物や加工品のブランド化が進んでいる。	
施策	(2)農業の新たな価値創出の推進	
総合戦略での位置付け	基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	-

施策の方向性	○「農」を支える交流や農村への移住・定住などを促進します ○農商工連携や異業種交流の取組を推進します ○農福連携など農地の新たな活用に取り組みます ○スマート農業や再生可能エネルギーなど新技術の導入を進めます	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	園芸振興事業	新規就農者確保事業
	農業振興施設管理事業	農業振興事業
	ダリアで彩る花のまちづくり事業	

担当部局	B	評価の理由	農業振興施設(西谷夢市場)では、地元の新鮮野菜をはじめ、加工品製造・販売を行ない、地産地消の取組を推進した。その他、ダリア生産拡大推進事業補助金を創設し、特産品開発支援を行った。
評価			

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		「農」に関する「モノ・コト・宝塚」選定資源数	↗	件	29	目標	35	35	38	38	41
		達成状況とその理由	令和3年度は「宝塚アーバンはちみつ」など、「農」に関する5資源を新たに選定した。								
②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	-	—			目標						
		達成状況とその理由									
③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	-	—			目標						
		達成状況とその理由									

施策実現のための課題	<p>農業者の後継者不足や高齢化、また、いわゆる生産緑地の2022年問題での都市農地の減少などが農業全体の課題である。また、宝塚ブランド「モノ・コト・宝塚」への認定などへの6次産業化は、国や県、市などの補助制度で後押しする必要がある。</p>	<p>課題を踏まえた今後の取組</p>	<p>商工、観光と農政が連携を図りながら、「農」に関する「モノ・コト・宝塚」の選定資源を増やしていくとともに、園芸振興施設、農業振興施設を通して、「花き・植木」や「西谷野菜」などの宝塚の農作物や加工品に触れていただく機会を市民に提供する。</p> <p>ロボット技術やICTを活用したスマート農業、農業者の所得向上や地域内での農産物やエネルギーの地域内循環のための再生可能エネルギー導入は、農家の高齢化や労働力不足に対応できる可能性があるが、実現性や採算性の観点から先進事例の調査や情報収集を行なっていく。</p>
------------	---	---------------------	---

行政評価委員会評価	<p>○農業振興は(1)持続的発展(守り)、(2)新たな価値創出の推進(攻め)、(3)「農」に触れ「農」を知る機会の創出(普及)の「3施策」があるが、特に(2)は「少子高齢化による農業離れを抑制し、革新的取組で新たな農業スタイルを創出する攻めの施策」であるべき。</p> <p>○成果指標①「『農』に関する『モノ・コト・宝塚』選定資源数」は、6-2(3)「モノ・コト・宝塚」の農業編で、革新的取組とは言い難い。施策の方向性のとおり、農村への移住・定住促進や農商工・農福の連携事業、スマート農業・再エネ導入等について具体的施策と数値目標、評価指標を検討すべきである。</p> <p>○宝塚ブランド「モノ・コト・宝塚」に選定しただけではブランド化しない。ブランド化されているかを判断するために売上高や来場者数などで継続して把握すべきである。また、コロナ禍における特別な需要も考えられることから、通常時との比較も考慮していく必要がある。</p>
-----------	---



# 施策評価表

施策分野	6-3 農業	
めざすまちの姿	○多くの人が身近に「農」に触れるとともに、農業を志す人が増え、「花き・植木」や「西谷野菜」などの農産物や加工品のブランド化が進んでいる。	
施策	(3)「農」に触れ「農」を知る機会の創出	
総合戦略での位置付け	基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	-

施策の方向性	○「農」に触れる機会の創出を図ります ○「農」に関する普及啓発活動を推奨します ○「地産地消」の取組の支援を行います ○地域の特性を生かした観光農業を活性化します	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	園芸振興事業	市民農園事業
	自然休養村運営事業	長谷牡丹園管理運営事業
	農業振興施設管理事業	

担当部局評価	B	評価の理由	園芸(花き・植木)産業は本市の地場産業であり、身近に花と緑に触れる機会として実施している植木まつりはコロナ禍で実施できていないが、コロナ禍で自宅できる趣味を模索する人が増える中、初心者でも自宅で園芸を楽しめる「おうち園芸」を実施した。拠点となった園芸振興施設(あいあいパーク)では、コロナ禍で一時的に落ち込んだ売上回復に寄与した。収穫祭はコロナ感染症感染防止対策のため飲食を伴わない形で実施した。長谷牡丹園については、2日間だが開園することができたが、一方で施設を管理する指定管理者から、高齢化を理由に令和4年度以降の指定管理を辞退する申し出があったため、新しい指定管理者の選定を行った。市街化区域における市民農園応募数は多く、貸し出しできる市民農園の増加も必要である。
--------	---	-------	---

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		市民農園利用者数	↗	人	577	目標	620	640	660	680	700
達成状況とその理由	市街化区域では利用希望者は多いが、新たな用地(農地)の確保が困難であった。令和3年度においては、高齢等の理由により、1農園が閉園したため、利用者数が減ることとなった。										
②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	「農」に関する講習会等参加者数	↗	人	891	目標	900	800	850	900	950	
達成状況とその理由	コロナ禍の影響により、植木まつり(「接木に関する講習会」)が中止となったほか、有害鳥獣に関する講習会が開催できなかった。しかし実施できたゲストティーチャー事業(市内小中学校で地産地消等を地元農家が講義する)においては、昨年度を上回る参加者があり「農」に関する関心を高めることができた。										
③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	-	-			目標						
達成状況とその理由											

施策実現のための課題	<p>本市には、宝塚ダリア園、長谷牡丹園、西谷夢市場、あいあいパークの4施設があるが、施設によっては、運営に関わる者の高齢化や後継者不足が今後の運営に支障を及ぼす可能性がある。長谷牡丹園では令和4年度指定管理者変更による栽培技術の継承が課題である。また、あいあいパークでは長期的に見ると利用者が減少傾向にあり、施設の魅力発信や新たな顧客層を開拓する必要がある。</p>	<p>課題を踏まえた今後の取組</p>	<p>植木まつり、オープンガーデンフェスタ、朝市やたからの市、西谷収穫祭などソフト事業を充実させ、各施設への来場者や売上につなげていく。コロナ禍の状況を見極めながら、ウィズコロナ、アフターコロナの開催のあり方を検討していく。長谷牡丹園については、今後、新たな指定管理者が牡丹栽培の技術を継承し、牡丹園の魅力を維持向上できるよう、市としても取り組んでいく。</p>
------------	--	---------------------	---

行政評価委員会評価	<p>○市民農園の施策としての位置付けが不安定である。【6-3(1)】又は【6-3(3)】のどちらかに集約し、再整理すべき。また、市民農園利用者数が施策評価と事務事業評価で異なる。全体的にわかりやすくなるように整理すべき。</p> <p>○主要4事業に関連する指標を検討すべき。</p> <p>○主要4事業の効率が良いところを伸ばすための「選択と集中」を行うことを検討すべき。</p> <p>○主要4事業と観光事業との連携など、部門横断的な取組を行うことを検討すべき。</p> <p>○まちづくりの観点から、「市民農園を増やす」ことについても検討すべき。</p>
-----------	---

# 施策評価表

施策分野	6-4 雇用・労働環境	
めざすまちの姿	○誰もが自分に合った働き方で、いきいきと働くことができる環境が実現されている。	
施策	(1)誰もがいきいきと働くための就労支援	
総合戦略での位置付け	基本目標1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり	基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり

施策の方向性	○雇用・就業促進と安定のための支援に取り組みます ○潜在的に就労を希望する人へのきめ細やかな支援に取り組みます	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	ワークサポート宝塚運営事業	高齢者就業機会確保事業
	就労支援事業	労働行政事業

担当部局評価	B	評価の理由	第2次労働施策推進計画策定に着手し、「誰もが自分に合った働き方ができるように支援し、いきいきと働くことができる環境の実現を目指す」を基本理念として進めた。そのため、国や県をはじめ、シルバー人材センター、商工会議所、民間企業などとも連携を深め、地域の実情に応じた就労支援に努めた。
--------	---	-------	---

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		女性のM字カーブ世代の労働力率	↗	%	64.5 (H27)	目標	74	74	74	74	74
達成状況とその理由		令和3年度は「女性のための伴走型就労支援事業」を実施したが、実績は国勢調査(直近は令和2年度に実施)による把握となり、当該調査結果が未公表のため令和3年度は現状値を実績とした。調査結果が公表され次第、実績値を更新する。									
②	指標名	めざす方向性	単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	若者等(15歳～49歳)の無業者数及び無業者比率	↘	%	1.5 (H27)	目標	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	
達成状況とその理由		令和3年度は「若者就労支援事業(就労チャレンジプログラム)」、ワークサポート宝塚での「若者しごと相談」などの伴走型の就労支援を実施した。実績は国勢調査(直近は令和2年度に実施)による把握となり、当該調査結果が未公表のため令和3年度は現状値を実績とした。調査結果が公表され次第、実績値を更新する。									
③	指標名	めざす方向性	単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	高齢者の労働力率	↗	%	18.3 (H27)	目標	22	22	22	22	22	
達成状況とその理由		(公社)シルバー人材センターとの連携により、高齢者の生きがい就労の促進に取り組んでいる。令和3年度は、会員増を目指し市の広報誌を活用して活動状況のPR等を行った。実績は国勢調査(直近は令和2年度に実施)による把握となり、当該調査結果が未公表のため令和3年度は現状値を実績とした。調査結果が公表され次第、実績値を更新する。									

施策実現のための課題	雇用・労働を取り巻く環境は、昨今のコロナ禍をはじめ、社会経済情勢により、めまぐるしく変化している。コロナ禍により雇用環境の悪化が懸念される一方、業種や業態によっては、人手不足が生じており、雇用のミスマッチが起こっている。	課題を踏まえた今後の取組	ハローワーク西宮、ワークサポート宝塚、シルバー人材センター、宝塚NPOセンターなど地域の実情に通じた民間事業者などの関係機関との連携を深め、若者、高齢者、障害(がい)者や女性など市民に寄り添い、引き続き地域の実情に応じた就労支援を展開する。
------------	--	--------------	--

行政評価委員会評価	○目標設定について、より細かく分析を行い、課題に応じた目標を立てるべき。 ○ワークサポート宝塚事業は施策の柱である。これについては丁寧な説明が必要である。 ○ワークサポート宝塚事業の相談件数等を指標として検討ありたい。
-----------	---

# 施策評価表

施策分野	6-4 雇用・労働環境	
めざすまちの姿	○誰もが自分に合った働き方で、いきいきと働くことができる環境が実現されている。	
施策	(2)働く場の創出と多様な働き方の実現	
総合戦略での位置付け	基本目標1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり	基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり

施策の方向性	○新たな就労機会の掘り起こしに取り組みます ○ワーク・ライフ・バランスの実現や新しい働き方の定着に向けた取組を促進します	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	ワークサポート宝塚運営事業	高齢者就業機会確保事業
	就労支援事業	労働行政事業

担当部局評価	B	評価の理由	本市の昼夜間人口比率は、県平均と比べ低い割合となっており、まちの活性化のためには市内で雇用を創出し、維持していく必要がある。コロナ禍が長引いており、廃業や休業に追い込まれないよう、国の雇用調整助成金や県の緊急対応型雇用創出事業、また臨時交付金を活用して市が実施した一時支援金事業などにより事業継続を支援することで雇用を守る取組を進めた。
--------	---	-------	--

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)	目標	R3	R4	R5	R6	R7
		市内従業者数	↗	人	54,498 (H28)	54,498 (H28)	63,400	63,400	63,400	63,400	63,400
達成状況とその理由		実績は経済センサス活動調査(直近は令和3年度に実施)による把握となり、当該調査結果が未公表のため令和3年度は現状値を実績とした。調査結果が公表され次第、実績値を更新する。令和3年度には宝塚市雇用促進連絡協議会の活動の一環として、会員企業を紹介するリーフレットの刷新や社員インタビュー記事を作成し、市ホームページに掲載した。									
成果指標	②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)	目標	R3	R4	R5	R6	R7
		昼夜間人口比率	↗	%	79.9 (H27)	82	82	82	82	82	82
達成状況とその理由		実績は国勢調査(直近は令和2年度に実施)による把握となり、当該調査結果が未公表のため令和3年度は現状値を実績とした。調査結果が公表され次第、実績値を更新する。									
成果指標	③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)	目標	R3	R4	R5	R6	R7
		有給休暇を80%以上取得している人の割合	↗	%	20.3 (R1)	49	49	49	49	49	49
達成状況とその理由		実績は令和5年度に予定する労働実態調査による把握となるため令和3年度は現状値を実績とした。次回の労働実態調査の結果により実績値を更新する。									

施策実現のための課題	<p>国においては、法令や制度を整備し、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた支援を行っており、本市においても労働者や事業所へ制度の周知と啓発、仕事と生活の両立支援を推進する必要がある。但し、長引くコロナ禍が経営基盤を危うくさせており、また、市内の多くが中小・小規模事業者、個人事業主であることなど、周知・啓発の効果が図り難い状況である。</p>	<p>課題を踏まえた今後の取組</p>	<p>テレワークや時差出勤の導入、ICT技術利活用による業務改善など働き方を見直すことは、労働者にとっては、ワーク・ライフ・バランスの更なる実現、使用者にとっても生産性向上などの多様なメリットがあるため、コロナ禍による一時的なものではなく、定着に向けた支援を行っていく。 市HP、商工会議所、NPO法人等を通して、ワーク・ライフ・バランスの周知と啓発を図るとともに、宝塚市雇用促進連絡協議会におけるセミナーや講演会のテーマとして取り上げること検討していく。 その他、シルバー人材センターと連携してニーズに合った就労機会の創出や、市内の商工業事業者への支援、農業・観光振興を推進することで、新たな雇用機会を生み出す。</p>
------------	---	---------------------	---

行政評価委員会評価	<p>○本施策の構成事務事業は、【6-4(1)】【6-4(3)】と重複しており、指標を変えただけのものである。そうすると同じ事務事業が3つの目的(「誰もがいきいきと働くための就労支援」「働く場の創出と多様な働き方の実現」「労働問題の防止と解決に向けた環境づくり」)の下で整理されていることになる。現状はいずれも「B評価」なので問題はないように見えるが、これではいずれかの施策に「A評価」や「C評価」を付けることはできない。すなわち、「B評価」以外の評定を付けることはできないという構造になっている。体系の整理を検討していただきたい。 ○成果指標①「市内従業者数」及び成果指標②「昼夜間人口比率」はどちらも外部機関や国勢調査に依存するため、適時性・機動性に欠ける。また同指標の目標未達の要因が、コロナ禍による雇用鈍化に加え、少子高齢化で労働力人口の減少率増加も一因と考えられる中、「新たな就労機会の掘り起こしや、ワーク・ライフ・バランスの実現」に向けた成果指標として相応しいかどうか、今一度、再検証が必要である。</p>
-----------	---

# 施策評価表

施策分野	6-4 雇用・労働環境	
めざすまちの姿	○誰もが自分に合った働き方で、いきいきと働くことができる環境が実現されている。	
施策	(3)労働問題の防止と解決に向けた環境づくり	
総合戦略での位置付け	基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	-

施策の方向性	○適正な労働環境の確保に向けた取組を促進します ○相談窓口の周知・他機関との連携に取り組めます	
--------	--	--

施策を構成する 主な事務事業	ワークサポート宝塚運営事業	就労支援事業
	労働行政事業	

担当部局 評価	B	評価の理由	労働者と事業主は、本来、対等な立場であるが、トラブル発生時には、労働者が弱い立場に置かれることが多くあり、ハラスメントなど労働者間でのトラブルも依然として存在している。トラブルを未然に防ぐ啓発を行なうとともに、トラブル発生時に相談できる場として、昨年度に引き続き、労働問題相談を実施した。
------------	---	-------	--

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値 (R2)	目標	R3	R4	R5	R6	R7
		国の総合労働相談コーナーの認知率	↗	%	25.3 (R1)	50	50	50	50	50	
達成状況とその理由		実績は令和5年度に予定する労働実態調査による把握となるため令和3年度は現状値を実績とした。次回の労働実態調査の結果により実績値を更新する。									
②	指標名	めざす方向性	単位	現状値 (R2)	目標	R3	R4	R5	R6	R7	
	苦情(ハラスメント)相談窓口を設置している事業所の割合	↗	%	-	77	77	77	77	77		
達成状況とその理由		実績は令和5年度に予定する労働実態調査による把握となるため、次回の労働実態調査の結果により実績値を更新する。									
③	指標名	めざす方向性	単位	現状値 (R2)	目標	R3	R4	R5	R6	R7	
	-	-									
達成状況とその理由											

施策実現のための課題	パワハラ、セクハラなどのハラスメントといった労働環境に悩みを抱えている労働者のために相談窓口を設けることは、安心して働くことができ、職場環境を整備できる点で有用であるが、周知や啓発の面で情報が行き届くことに課題がある。	課題を踏まえた今後の取組	市では、労働問題相談を実施するほか、労働基準監督署、社会保険労務士会などの関係機関の窓口へ適切につなぐとともに、引き続き周知に努める。また、公共職業安定所、労働基準監督署、県、シルバー人材センター、宝塚商工会議所などとの連携を強化し、相談の内容に応じて、それに適した相談先へつなげることにより、相談業務の充実を図る。
------------	---	--------------	--

行政評価委員会 評価	○本施策の構成事務事業は、【6-4(1)】【6-4(2)】と重複しており、指標を変えただけのものである。そうすると同し事務事業が3つの目的(「誰もがいきいきと働くための就労支援」「働く場の創出と多様な働き方の実現」「労働問題の防止と解決に向けた環境づくり」)の下で整理されていることになる。現状はいずれも「B評価」なので問題はないように見えるが、これではいずれかの施策に「A評価」や「C評価」を付けることはできない。すなわち、「B評価」以外の評価を付けることはできないという構造になっている。この構造は問題である。体系の整理を検討していただきたい。 ○「労働問題の件数見える化」し、労働問題の類型化(ハラスメント、労使関係等)に応じた相談事業(ワークサポート、労働行政、就労支援等)を体系的に整理の上、直接的評価と効果の確認が可能な指標を検討すべき。
---------------	--

# 施策評価表

施策分野	6-5 文化・国際交流	
めざすまちの姿	<p>○多くの人が日々の暮らしの中で文化芸術や歴史に親しみながら、心豊かに暮らし、その魅力がまち全体で発信されている。また、文化芸術と福祉や教育、産業などとの連携が進んでいる。</p> <p>○国内外の人々との文化交流が広がるとともに、異文化を認め合い、共に生きる多文化共生社会の形成が進んでいる。</p>	
施策	(1)文化芸術に触れ、創造する喜びを実感できる環境づくり	
総合戦略での位置付け	基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	-

施策の方向性	<p>○文化関連施設の有機的連携(協働)を推進します</p> <p>○誰もが文化芸術に触れ、楽しめる環境づくりに取り組みます</p> <p>○いつでも文化芸術に親しめるよう情報発信に取り組みます</p> <p>○子どもをはじめ市民の創造性を育みます</p>	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	手塚治虫記念館管理運営事業	文化芸術センター・庭園管理運営事業
	文化施設(ベガ・ホール、ソリオホール)管理運営事業	文化振興事業
	宝塚文化創造館(宝塚音楽学校旧校舎)管理運営事業	

担当部局評価	B	評価の理由	文化芸術センター及び庭園の新設により、大型美術作品の展示など新たな事業を展開している。庭園などを活用したワークショップでは、子どもから大人まで幅広い世代から好評を得ており、指標①の目標を上回った。また、この新設を機に、隣接する手塚治虫記念館、文化創造館と協調した取り組みを進め、3館での事業実施など新しい魅力を発信しつつあり、各施設へもよい影響を与えている。庭園で月1回開催するマルシェは、文化芸術に興味薄い方にも、施設へ来場するきっかけづくり、誰もが自然と文化芸術を親しめる環境を提供しており、「めざす方向性」に進んでいるが、コロナ禍の外出制限等により、指標②の評価は低くなった。
--------	---	-------	---

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)	目標	R3	R4	R5	R6	R7
		文化芸術センター及び庭園の来場者数	↗	人	452,885	622,598	480,000	510,000	540,000	570,000	600,000
		達成状況とその理由	新施設への期待はもとより、コロナ禍で遠方より近隣に出掛ける傾向が強くなったことから、気軽に訪れることが出来るライブラirieや日常的に庭園(公園)を利用する方が多くなり、目標値を上回った。								
②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)	目標	R3	R4	R5	R6	R7	
	「文化芸術活動によく親しんでいる」と回答した市民の割合	↗	%	24.5(H30)	7.6	26	-	28	-	-	
		達成状況とその理由	コロナ禍での施設の臨時休館、活動の制限などにより、日常の活動が行えなかったことから、現状値を大きく下回る評価となった。通常の活動に戻る施策を講じているが、コロナ禍以前には戻り切っていない。								
③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)	目標	R3	R4	R5	R6	R7	
	-	-									
		達成状況とその理由									

施策実現のための課題	<p>文化芸術センターなど一つのエリアとして、事業展開を行っていくには、各施設の運営主体が異なることが障害とならないよう、壁を越えた連携が必要である。</p> <p>一方、センター全体での来場者数は、当初の目標を大きく上回ったが、メインギャラリーでの有料展示への来場者が目標を下回っており、展示内容やPRの手法などを再検討が必要である。</p> <p>コロナ禍での施設の臨時休館、活動の制限などにより、日常の活動が行えない状況が続いている。兼ねてから活動団体の高齢化が課題であったが、コロナ禍を機に活動を終える団体もあり、新たな活動の芽を育てていくことが課題である。</p>	課題を踏まえた今後の取組	<p>エリアとして、さらなる賑わいを生んでいくには、コロナ禍で大規模な事業が行いにくい中で、施設間相互の連絡を密にし、各施設が計画する事業内容や開催日程の調整などを行い、ともに情報を発信していくことで、いつも笑顔が絶えないエリアづくりを目指していく。</p> <p>文化芸術センターでの事業展開については、指定管理者と課題意識を共有し、展示会の再検討や他施設から展覧会の誘致など改善策に取り組んでいく。コロナ禍前の水準への活動の回復のため、ライブ配信など新たな取組へのチャレンジには、施設利用時の技術的支援や活動への助言や施設利用への補助制度により、文化芸術活動が少しでも前進する環境づくり、また、新たな人材の発掘、育成に努めていく。</p>
------------	---	--------------	---

行政評価委員会評価	<p>○文化政策に関しては、宝塚市には多くのパワーコンテンツがある。手塚治虫記念館については「観光」に主眼があるようだが、「文化を育てる」という観点も欠かせない。宝塚市の個性をいかし価値を高める文化政策としての充実が期待される。</p> <p>○市長部局で文化行政を所管する意味は、まちづくりと関連させるという点にある。したがって単なる施設管理に留まらない施策展開が求められる。このような観点から、文化行政についてはその質も追求すべき。</p> <p>○宝塚市を象徴する施設が集中する地域がある。施設間の相乗効果を考慮に入れていただきたい。</p>
-----------	--

# 施策評価表

施策分野	6-5 文化・国際交流	
めざすまちの姿	<p>○多くの人が日々の暮らしの中で文化芸術や歴史に親しみながら、心豊かに暮らし、その魅力がまち全体で発信されている。また、文化芸術と福祉や教育、産業などとの連携が進んでいる。</p> <p>○国内外の人々との文化交流が広がるとともに、異文化を認め合い、共に生きる多文化共生社会の形成が進んでいる。</p>	
施策	(2)文化芸術により人と人がつながる取組の推進	
総合戦略での位置付け	基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	-

施策の方向性	<p>○活動カテゴリを越えた交流や連携の促進を図ります</p> <p>○地域間交流を継続させ、推進します</p> <p>○人材や市民組織(団体)の育成を図ります</p>	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	文化芸術センター・庭園管理運営事業	文化施設(ベガ・ホール、ソリオホール)管理運営事業
	文化振興事業	宝塚文化創造館(宝塚音楽学校旧校舎)管理運営事業

担当部局評価	B	評価の理由	文化財団、文化団体連絡会の活動を通じて、文化芸術活動のカテゴリーを越えた事業を展開し、依然としてコロナ禍で活動制限が多く、活動状況に格差が生じている中ではあるが、指標①は目標に達した。しかし、新しい生活様式を取り入れた市民活動へは、リモートでの開催など技術的指導や経済的支援を行い、沈滞傾向にある活動に刺激を与え、ボランティアなどの人材のスキルアップを図りながら「めざす方向性」に向かって進めており、指標②は目標に達していないが、B評価とした。一方で、姉妹都市、友好都市の交流やボランティア活動などは、感染症の状況や人の移動制限等から、やむを得ず見送る傾向が依然と強い。
--------	---	-------	---

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		協働による文化芸術関連事業数	↗	事業	65	目標	90	115	140	150	164
達成状況とその理由	新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、活動に制限を受けたり、団体での活動に際し、自粛せざるを得ない状況が続いているが、市からの広報だけではなく、活動に対する技術的経済的な支援制度を設け、活動を刺激したことで、目標に達した。										
②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	文化芸術関連の市民ボランティアの登録者数	↗	人	145	目標	175	205	235	265	300	
達成状況とその理由	新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、集団による活動が制限されるうえ、参加を自粛する動きもみられる。参画の意思はあるものの、定期的な活動が行えず、定着しづらい状況にある。										
③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	-	-			目標						
達成状況とその理由											

施策実現のための課題	<p>コロナ禍での制限により、市民活動のカテゴリー間で活動状況に格差が生じている。特に、合唱など集団での活動は制限を受ける場合が多く、練習不足が慢性化する傾向にあり、高齢化も課題としてある中で、団体としての維持が難しい部分が見られる。</p> <p>都市間交流は、見合わせが長期化し、職員間の関係も希薄になることが危惧される。</p>	課題を踏まえた今後の取組	<p>市、文化財団が協力し、市民活動の目標や活動再開のきっかけとなるよう、これまで開催を見合わせてきた発表の場を出来る限り再開していく。</p> <p>国の補助金等を活用しながら、新しい活動方法を提案する市民団体を支援するなど、少しでも日常に近い活動が行えるよう策を講じる。</p> <p>市民ボランティアについては、定期的な安定した活動ができるよう無理のないプログラムを検討する。</p> <p>都市間交流においては、音楽だけではなく、コロナ禍においても、影響が少ない分野での交流を検討する。</p>
------------	---	--------------	---

行政評価委員会評価	<p>○【6-5(3)】においてベガ・ホール、ソリオホール、宝塚文化創造館の利用率が指標として掲記されているので、本施策の構成事務事業からはこれらの事業は除くべきではないか。施策の体系を整理していただきたい。</p> <p>○コロナ禍において、文化芸術関連事業数が増加したことは評価できる。</p> <p>○今後も制限がある中で市民ボランティアの減少はあるが、引き続き協働しながら活動団体が継続して活動できるよう、また、活動を見合わせてきた団体が再開できるよう支援していくことを期待する。</p> <p>○施策を構成する主な事務事業が【6-5(1)】及び【6-5(3)】と重複しており、それぞれの事務事業のどの部分を評価すれば良いのか判断に悩む。主な事務事業の構成や施策体系を見直すべき。</p> <p>○指標②が減少しているが、その理由は分析されていない。「C評価」に近い状態にあることが疑われる。少なくとも指標②が低迷する理由の分析が必要ではないか。</p>
-----------	---

# 施策評価表

施策分野	6-5 文化・国際交流	
めざすまちの姿	<p>○多くの人が日々の暮らしの中で文化芸術や歴史に親しみながら、心豊かに暮らし、その魅力がまち全体で発信されている。また、文化芸術と福祉や教育、産業などとの連携が進んでいる。</p> <p>○国内外の人々との文化交流が広がるとともに、異文化を認め合い、共に生きる多文化共生社会の形成が進んでいる。</p>	
施策	(3)文化芸術により成長を続けることができる取組の推進	
総合戦略での位置付け	基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	-

施策の方向性	<p>○市民の文化芸術活動などの支援の充実に努めます</p> <p>○文化芸術の持つ創造性を生かし、他の分野との有機的連携を進めることにより、地域の社会課題解決や活性化の取組を推進します</p>	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	手塚治虫記念館管理運営事業	文化芸術センター・庭園管理運営事業
	文化施設(ベガ・ホール、ソリオホール)管理運営事業	文化振興事業
	宝塚文化創造館(宝塚音楽学校旧校舎)管理運営事業	

担当部局評価	B	評価の理由	市民の文化芸術活動においては、新型コロナウイルス感染症の影響が依然として大きく影を落とし続けており、指標①は目標値に達したが、コロナ禍以前の活動(R元年度の68%)までは回復していない。他分野との連携では、アートによる観光まちづくり事業「TRAD」を展開し、文化芸術を観光関連事業に持ち込むことで、新たなまちの賑わいづくりに寄与しており、4万人を超える来場があるなど、大きな成果を得られた。コロナ禍で、大規模な事業が実施できない反面、規模が小さくなることで、参画が容易となり、宿泊施設での美術製品の展示や商店でのスタンプラリーなど新たな連携も見られ、指標②に達していないが、施策の方向性を見据えた活動が出来ており、「B」評価とする。
--------	---	-------	--

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		文化施設(ベガ・ホール、ソリオホール、宝塚文化創造館)の利用率	↗	%	60.1	目標	65	68	71	72	73
達成状況とその理由	緊急事態宣言、度重なるまん延防止等重点措置に伴い、団体やグループでの活動に制限を受ける場合や活動を自粛する傾向が見られた。一方で、新しくホールを個人練習でも使用できることとしたため、利用率では目標に近い数値となった。										
②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	他分野と連携した取組数	↗	事業	22	目標	32	49	66	83	100	
達成状況とその理由	緊急事態宣言、度重なるまん延防止等重点措置に伴い、市民活動が制限された場合や活動を自粛する動きが見られたが、目標に近い数値となった。										
③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	-	-			目標						
達成状況とその理由											

施策実現のための課題	<p>新型コロナウイルス感染症の影響から、市民の文化芸術活動が鈍化している。コロナ禍の長期化から、通常の活動はもとより、以前から指摘されている指導者の高齢化による担い手不足から、活動自体を断念する動きも見られる。TRADは、今以上に、連携の輪が広がる可能性のある事業だが、国の補助金を活用した事業であり、令和4年(2022年)度が最終年度となる。</p>	課題を踏まえた今後の取組	<p>現在の活動維持、新たなチャレンジには、可能な限りの支援を行い、文化芸術活動に少しでも触れる機会を創出していく。市民団体への人的な支援は難しいが、施設利用料の補助など活動支援策を継続する中で、新たな人材の発掘や育成につなげていく。</p> <p>TRADへの国の補助が最終年度となるが、今後も継続できる体制づくりを意識しながら、事業への参画を促していく。特に、今後も連携先(民間)が主体となって、活動が継続できる事業については、これからの枠組みも整理しながら進めていく。</p>
------------	---	--------------	---

行政評価委員会評価	<p>○本施策の構成事務事業は【6-5(2)】との間に重複が見られる。整理すべきである。なぜなら、このままでは構成事務事業が同じなのであるからいずれかの施策だけに「A評価」や「C評価」を付けることはできない、すなわち「B評価以外は付けられない」という構造になっている。施策の体系を整理ありたい。</p> <p>○成果指標②は、何を根拠に算出されたものか不明である。さらに【6-5(2)】の成果指標①と何がどのように異なるのか、それぞれの指標の特性が曖昧である。施策体系を整理した上で事業の特性を明確にし、成果指標を見直すべき。</p> <p>○コロナ禍において、文化施設の利用率が向上し、目標達成できたことは評価できる。他分野との連携では、「TRAD」などにより新しいつながりが生まれたことを発展させ、今後も必要な事業は継続することにより様々な分野と連携を期待する。ただし、「TRAD」は本施策を構成する主な事務事業ではないと整理されている。この点は明快に整理すべきである。</p>
-----------	---

# 施策評価表

施策分野	6-5 文化・国際交流	
めざすまちの姿	<p>○多くの人が日々の暮らしの中で文化芸術や歴史に親しみながら、心豊かに暮らし、その魅力がまち全体で発信されている。また、文化芸術と福祉や教育、産業などとの連携が進んでいる。</p> <p>○国内外の人々との文化交流が広がるとともに、異文化を認め合い、共に生きる多文化共生社会の形成が進んでいる。</p>	
施策	(4)歴史や文化、習慣の違いを認め、尊重する地域社会の構築	
総合戦略での位置付け	-	-

施策の方向性	<p>○多文化共生や異文化相互理解を推進します</p> <p>○インバウンド・アウトバウンドなどで国際理解を推進します</p>	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	国際・文化センター管理運営事業	国際交流事業
---------------	-----------------	--------

担当部局評価	B	評価の理由	国際・文化センターでは日本語教室、生活相談を軸とした外国人市民への支援を行っているが、新型コロナウイルス感染症により、外国人市民の子育て支援などは、センターの休館により中断を余儀なくされた。相談業務は、休館中でも電話による対応により途切れない体制を整えたが、指標を下回った。当初の計画を変更せざるを得なかったが、啓発展示や外国の文化を紹介する異文化相互理解事業の実施を通じて、多文化共生の推進を図った。対話による啓発が不十分であったが、啓発を継続することにより、理解の裾野を広げた。国際・文化センターの利用については、市民活動再開の動きも見られ、指標に達したことからB評価とする。
--------	---	-------	--

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		外国人支援件数	↗	件	1,428	目標	1,543	1,698	1,868	2,055	2,260
		達成状況とその理由	新型コロナウイルス感染症による海外からの入国制限により、新規の来日者が減少した。また、緊急事態宣言に伴うセンターの臨時休館や、度重なるまん延防止等重点措置により活動が制限されたこと、活動を自粛する動きが大きく影響した。								
成果指標	②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		国際・文化センターの利用率	↗	%	40.9	目標	45	50	55	60	62
		達成状況とその理由	緊急事態宣言に伴うセンターの臨時休館や、度重なるまん延防止等重点措置により活動が制限されたが、市の補助金制度を活用した活動も見られ、徐々にではあるが、活動の再開が加速化する傾向にある。								
成果指標	③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		-	-			目標					
		達成状況とその理由									

施策実現のための課題	<p>市と市国際交流協会との協働により施策に取り組んでいるが、ボランティア色が強い活動が主体となっており、コロナ禍が長期化する中、活動の鈍化が危惧される。日本語教室や生活相談は、これまで通りの運営を行ってはいるが、その他の事業では、実施を見合わせる場合や廃止される場合も見られる。異文化相互理解事業については、継続的な啓発活動が必要であるが、コロナ禍にあり、満足に事業が実施出来ていない。</p>	課題を踏まえた今後の取組	<p>協会が長きに渡り、国際・文化センターの運営を担っていることから、状況を熟知し、対応もスピーディーではあるが、事業の硬直化を指摘する声もあり、同センターの活性化のため、事業内容の再検討や持続可能な協会自体の体制について協議を行っていく。</p> <p>国際・文化センターでの主催事業、異文化相互理解事業においては、単に事業を再開するだけではなく、新たな手法を取り入れながら、事業の組み立てを行っていく。</p>
------------	--	--------------	---

行政評価委員会評価	<p>○外国人支援件数に、どのようなことが含まれているのか評価表から読み取れず明確ではない。評価表からは語学助成と留学支援しか読み取れない。メインの事業である「生活相談」の状況がわかるように評価表を作成すべきではないか。</p> <p>○「めざすまちの姿」に福祉との連携があるが、その内容が評価表に表れていない。国際文化センターで福祉との橋渡しをしているのであればそれがわかるように評価表に表現すべきである。</p> <p>○国際・文化センターの利用率が向上したことは評価できる。今後は、コロナ禍において制限がある中でも実施可能な事業や、コロナ禍なればこそ必要な事業の検討が必要である。</p> <p>○行政機関の取組を評価するのであれば「B評価」は妥当といえるが、この総合評価は社会の状況を評価しようとしているのか、それとも担当部局の成績をつけようとしているのか。</p>
-----------	---